



病理診断部 業務実績報告 (2020年 1月~12月)

◎組織診

受付件数	15,206件
作製ブロック数	67,613個
HE染色枚数	81,992枚
特殊染色枚数	49,042枚
術中迅速診断件数	952件
術中迅速診断ブロック作製個数	1,846個
センチネルリンパ節診断件数	196件
センチネルリンパ節診断ブロック作製個数	597個
未染スライド薄切枚数 (免疫染色用・外注用など)	32,485枚

◎免疫組織化学 (IHC)

IHC件数	3,672件
IHC染色枚数	19,878枚
ER・PR*件数	507件
Her2*件数	535件
FISH*件数	126件
EBER1*件数	151件

*ER・PR、Her2：酵素抗体法
*FISH：蛍光 in situ ハイブリダイゼーション
*EBER1：EBウイルス関連リンパ腫、胃癌等の確定診断のための検査

◎細胞診

受付件数	14,468件
迅速件数	266件
総染色枚数	35,029枚

◎剖検 (病理解剖)

件数	26件
うち院外剖検	5件

◎蛍光抗体法

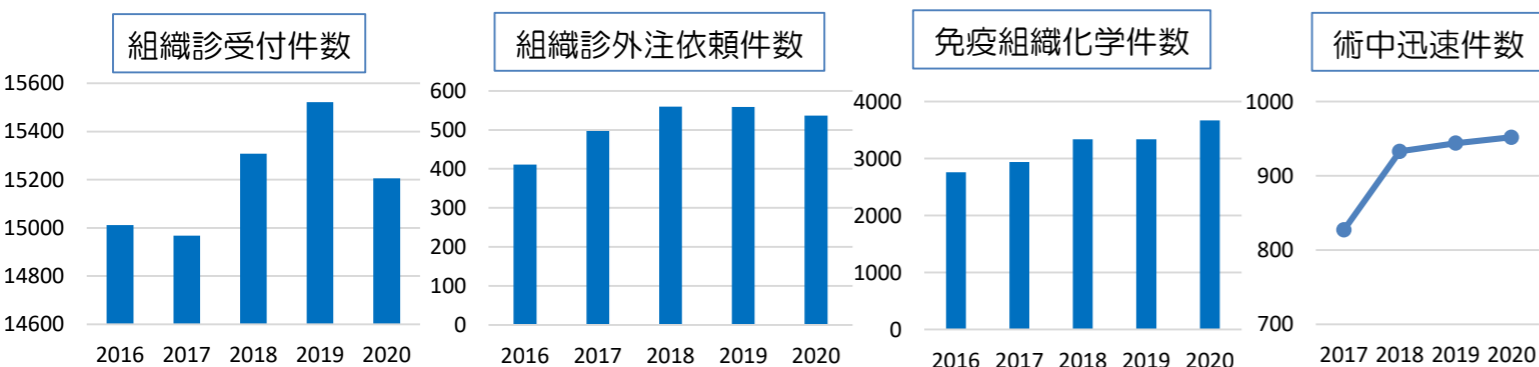
件数	288件
染色枚数	2,084枚

◎電子顕微鏡検査

件数	323件
----	------

* 前年から増加

- 組織診の受付件数は微減、コロナ禍においても術中迅速診断件数は昨年と同様でした。また、がんゲノムパネル検査及び外注検査の増加に伴い、未染作製枚数も増加しました。
- 免疫組織化学検査において、乳腺などの診断・治療に必要なER、PR、Her2染色およびFISH検査が増加しました。
- 電子顕微鏡検査は微細形態解析技術を駆使し、ウィップル病、カルタゲナー症候群等稀少な病気の病理確定診断に寄与しています。心筋生検においては細胞内小器官の観察、以上蓄積物の分析、心筋細胞の変性等の観察を行います。腎生検においては、慢性腎炎などの病理診断補助、慢性腎不全患者の増加に伴う腎移植後の拒絶反応・免疫抑制剤使用上の腎臓への影響の有無などパンフ分類に沿った観察を行い、病理確定診断に多大な貢献をしています。



検体受付および剖検受付時間

8:30 ~ 17:15 (内線 2257)

注) 土・日・祝祭日は剖検のみ受付 (内線 2257 or PHS 18218)

退職のごあいさつ

病理診断部を3月いっぱいまで退職するスタッフからのご挨拶です。

松原 大祐 先生



皆さま、大変にお世話になりました。足掛け15年、人生の実に1/3を、自治医大で過ごしてまいりました。4月からは、筑波大学の診断病理学研究室に移り、野口雅之先生の基盤を引き継ぐ予定です。仁木利郎先生の弟子として恥じぬように頑張りたいと思います。

なお、4月以降も、自治医大におきましては、非常勤(客員教授)として、統合病理の研究に参加しますので、よろしくお願いします。

谷川 雅彦 先生



1年間という短い時間ではありましたが、スタッフの皆様には大変お世話になりました。

病理診断などを通して多くの方々と関わり、さまざまなことを学ばせていただき、とても有意義な時間を送ることができました。

4月から福岡県北九州市へ異動しますが、自治医科大学附属病院 病理診断部での皆様との出会いや学んだこと、経験のすべてを、次の勤務先でも活かしていきたいと思っています。不慣れな環境、コロナ禍の制限が多い中でしたが、優しく、温かいサポートをしていただきまして、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

芳賀 美子 技師



この度、3月末日をもって自治医大を退職することになりました。

本来は60歳で退職のところ嘱託職員として定年後も働かせて頂きありがとうございました。4月からは家に籠ってしばらくはのんびりしようと思っています。

私にとって自治医大で過ごした時間は、一言では語りつくせないほどとても貴重な時間を過ごさせて頂きました。この様な時を過ごさせていただけたのも皆様のご指導と温かいご配慮があったからこそと感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

切り出し室入室時ガウン着用をお願い

2021年4月から

病理診断部では4月から、毒劇物や感染性の高い場所に立ち入る場合、安全性に十分に配慮しなければいけない(=ガウンの着用)とのISO(国際標準化機構)基準を遵守する運びとなりました。

対象は、切り出し室に入室する全員です。切り出し室に入室し、ホルマリンを取りに来る方々も対象となります。お手数ですが、ガウンを着用の上入室してください。

ガウンは、切り出し室入り口の右側に置いてあります。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

